

**・南半球とアジア南部でのインフルエンザ流行**

南半球は冬の終わりを迎え、インフルエンザの流行が次第に鎮静化しています(WHO Global Alert and Response 2011-9-23)。オーストラリアではまだ患者数は多いものの、ピークは過ぎている模様です。ウイルスの種類としてはA(H1N1)2009型とB型が多く検出されています。ニュージーランドもB型を中心に流行が続いていますが、患者数は減少傾向にあります。なお、オーストラリアのニューサウスウェールズ州では、オセルタミビル(商品名:タミフル)に耐性のA(H1N1)2009型ウイルスに感染した患者が、25例確認されました(WHO Global Alert and Response 2011-9-9)。いずれの患者も重症化することなく回復しています。

アジア南部でも6月からインフルエンザ患者数の増加がみられていましたが、9月になり発生数は少なくなっています(WHO Global Alert and Response 2011-9-23)。インド、タイ、シンガポールではA(H3N2)型、ベトナムではA(H1N1)2009型のウイルスが主に検出されています。熱帯地域ではインフルエンザの流行が雨季にみられます。これは、雨のため家の中で過ごす人が多く、飛沫感染がおこりやすくなるためです。今回、アジア南部でみられた流行も、雨季に一致した流行になります。熱帯地域では雨季を中心にインフルエンザ予防にこころがけてください。

**・今年の東南アジア諸国での Dengue 熱流行状況**

東南アジアでは今年も各地で Dengue 熱の流行がみられています。

WHO 西太平洋事務局の発表によれば、8月中旬までにカンボジアで1万人、マレーシアで1万3000人、フィリピンで6万3000人、シンガポールで4000人、ベトナムで2万2000人の患者が発生しています(WHO Western Pacific Region HP 2011-9-1)。タイでも4万人近い患者が発生している模様です(Pro MED 2011-9-13)。昨年は東南アジアで Dengue 熱が大流行しましたが、今年の患者発生は昨年と比較して少ないようです。ただし、流行はこの先も続くことから、流行地域に滞在する際には蚊に刺されない対策など十分な注意が必要です。

**・パキスタンでポリオ患者が増加**

パキстанはポリオの流行が続いている数少ない国の一つです。本年は既に84例の患者が確認されており、昨年(年間発生数:48例)に比べて増加している模様です(WHO Global Alert and Response 2011-9-20)。今年の7月には、中国の新疆ウイグル自治区でポリオ患者が4例発生しましたが、(検疫所 HP 2011-8-26)この事例もパキスタンからの輸入例であることが明らかになりました。

こうした状況から、WHO はパキスタンに滞在する渡航者にポリオワクチンの追加接種を呼びかけています。日本では小児期に経口生ワクチンを2回接種していますが、追加接種にあたっては経口生ワクチンなら1回、注射用不活化ワクチンなら2回の接種が推奨されます。とくに1975年～1977年生まれの方は小児期のワクチン接種による抗体獲得率が低いいため、追加接種を強く勧めます。

#### ・WHO が黄熱病ワクチンの接種推奨国を変更

WHOは黄熱病ワクチンの接種を推奨する国のリストを一部変更しました(WHO Weekly Epidemiological Record No37, 2011-9-9)。今回の変更にあたっては、流行国における感染リスクを高、中、低レベルの3段階に分類し、高レベルと中レベルの国に滞在する者について、ワクチン接種を推奨しています。この結果、アフリカ地域ではソマリア、タンザニア、ザンビアなどが接種推奨国から除外されました。

その一方で、南アフリカ政府は自国への黄熱病侵入を防ぐため、流行国からの入国者に対してワクチン接種証明の提示を厳格化しています(外務省海外安全ホームページ 2011-9-2)。ワクチン接種を受けていないと入国できなくなりますが、これは流行国にトランジットで滞在した旅行者も同様です。南アフリカは先のWHOのリストと別に黄熱病流行国リストを発表しており、10月からはWHOが除外したばかりのザンビアもリストに含まれる予定です。